統計の眼

前年割れが続く冷凍野菜の輸入量

堅調に伸びてきた冷凍野菜の輸入量だが、残留農薬問題の影響で前年割れが続いている。

二〇〇一年の冷凍野菜の輸入量は、前年比四・七％増の八〇万九千トンで十年前に比べて倍増、また冷凍食品の消費量に占める冷凍野菜の割合（二〇〇一年）は、三四％で十年前よりも八％上昇した。しかし、二〇〇二年の輸入量は九月までの累計で前年同期比▲五・九％となっている。

国内で消費されている冷凍野菜のほとんどは輸入品であり、主な輸入相手国はアメリカと中国で、この二カ国で冷凍野菜輸入量全体の八割を占めている。特にここ数年は中国の伸びが目立っており、二〇〇〇年にはアメリカを抜いてトップとなった。二〇〇一年の中国からの冷凍野菜輸入量は前年比一四・二％増の三六万二千トンで、輸入量全体に占める中国産の比率は、四四・八％となり、アメリカを七・四％上回っている。

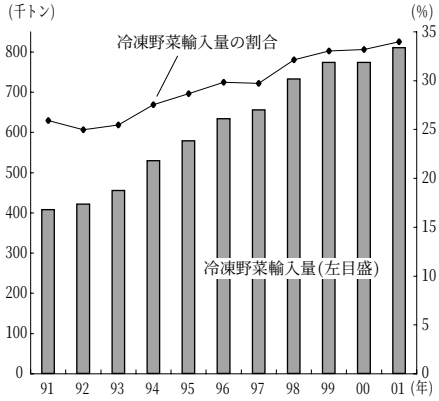
品目別の輸入量（二〇〇一年）は、ばれいしょが二七万四千トンで最も多く、次いで枝豆（七万七千トン）、さといも（五万五千トン）、ほうれんそう（五万トン）となっている。さといもとほうれんそうは、そのほとんどが、そして枝豆の六割が中国からの輸入である。一方、ばれいしょは八割がアメリカからの輸入であり、品目ごとに棲み分けが行われている。

冷凍野菜は、使いやすい形に加工され、保存がきくなど利用者のニーズにマッチしているため外食産業向けはもとより、惣菜や加工食品の一次加工原料としての需要が増加している。また調理が簡単で小口使用ができる利点から、一般家庭での使用量も増えている。

冷凍野菜は、簡便性、保存性に優れていることから、食の外部化の進行に伴って、消費量が伸びてきた。しかし、中国産の冷凍ほうれんそうの残留農薬問題が浮上したころから引き合いが減り始め、冷凍野菜の輸入量は、二〇〇二年五月以降、前年割れが続いている。中国では残留農薬問題を受けて検査体制の強化などの対策が進んでいるが、消費者が食品の安全に敏感になっており、今後の動向が注目される。

（中村光次）

冷凍野菜の輸入量と冷凍食品消費量に占める冷凍野菜輸入量の割合



資料：財務省「貿易統計」、日本冷凍食品協会